キリスト教絵画に描かれた都市フィレンツェについての考察

都市景観画（ヴェドゥータ）による都市フィレンツェに関する建築論的研究（その2）

A STUDY OF THE CITY OF FLORENCE IN THE CHRISTIAN PAINTINGS

A research of the city of Florence through cityscape-paintings

“Vedutismo Fiorentino” Part 2

深水 浩*

Hiroshi FUKAMIZU

This paper aims to clarify the architectural consciousness of the city of Florence by analysing the characteristics of the city-images in Christian paintings from the 14th to the 16th century. The expression of Florence can be categorized into three patterns. First, Florence in which saints and the Virgin Mary play an active roles. Second, the proximity between Florence and the Holy world. Third, Florence protected by the benevolent nature of Holy figures. These variations of the expression of Florence not only confirm the glory of the God and enrich the religious city-life of the people, but also contribute to the formation of the identity and the originality of the city of Florence.

Keywords : Firenze(Florence), Christianity, Christian paintings, “Veduta”

フィレンツェ、キリスト教、キリスト教絵画、ヴェドゥータ

1. 序

都市フィレンツェが描かれた14世紀から16世紀前半までのキリスト教絵画¹を研究対象とし、これらの絵画の中における神²の栄光のもとでの都市フィレンツェ³の描画方法及び描画形式等の描画特性を整理分析する⁴事により、当時の人々の、都市と神の世界の位置づけ、及び都市に対する考え方（都市観）を考察する。また、併せて同時期（中世末期からルネサンス期にかけて）の活発な建設活動との関係、ルネサンス期に成立した「ヴェドゥータ」⁵との関係を考察し、フィレンツェの独自性について模索する。

2. キリスト教絵画における都市の描画特性分析

キリスト教絵画では都市は大局的にみて次の二通りに表現される。

- * 前景で展開する神々の物語、事件⁶を成立させる背景として描かれる都市。場所的性格を帯びる。
- * 神々（特に聖母マリア、諸聖人⁷）のアトリビュート（付属物）として小模型（雛形）のように描かれる都市。

表-1にフィレンツェが描かれたキリスト教絵画についてその他の特質も併せて整理した。⁸さらに特徴的な絵画については以下でとりあげる。

【背景として描かれた都市フィレンツェについての分析】

①サン・ザノビの奇跡（ベルナルド・ダッディ派 14世紀半ば）

サン・ザノビ（ゼノビウス）は4世紀フィレンツェの司教であり、伝説によると死者を蘇らせる霊力を有したとされる。サン・ザノビの奇跡には二つあるがここでは牡牛の荷車にひかれて死んだ子どもを街頭で生き返らせた言い伝えが主題である。その場所は現在のボルゴ・デッリ・アルビツィ（ローマ植民市時代のデクマヌスを東へ延長した通り）と言われている。⁹

この絵画では背景にサンタ・レパレータ教会及びジョットの鐘楼と城門の一つが描かれているが、透視図法の使用はなく都市内の一地域の背景描写というよりは個々の建築物の描写の感が強い。

②サン・ザノビの奇跡（ドメニコ・ヴェネツィアーノ 1445-48頃）

上と同じ主題である。前景にサン・ザノビと生き返った子ども、そしてこの奇跡を目の当たりにした人々が描かれ、背景に都市内の通り（上記ボルゴ・デッリ・アルビツィ）及び通りの両側の家々がヴィスタを強調するよう厳密に透視図法に従って描かれている。その焦点右側にサン・ピエール・マッジョーレ教会が描かれている。

③サン・ザノビの奇跡（コジモ・ロッセリとその一派 15世紀後半）

上と同じ主題である。ミニアチュール形式で描かれているため構図に関しては道幅が若干狭くなった程度で上とはほぼ同じものの、建

* F.T.A.建築/都市研究室 工修

F.T.A. Laboratory, M. Eng.

	絵画名	制作画家	制作年	形式	主題	全図/部分図	主題/背景
	ビタイオーロの写本	ビタイオーロの図入	1328/35	ミニアチュール	フィレンツェの歴史描写	部分	背景
⑪	慈愛の聖母	ベルナルド・ダッディ	1342	フレスコ	民衆と都市を庇護する聖母マドンナ	全体	主題の一部（図形）
	ジョッペの物語	タッデオ・ガッディ	1342頃	フレスコ	ジョッペの物語	全体	背景
	アテネ公の追放	アンドレア・オルカーニャ	1343頃	フレスコ	フィレンツェの歴史事件	部分（一図景物）	主題の一部（図形）
⑫	聖母子と聖人	ジョット派	14世紀半ば	フレスコ	聖母子と随行人	部分（一図景物）	主題の一部（図形）
①	サン・ザノビの奇跡	ベルナルド・ダッディ派	14世紀半ば	ミニアチュール	サンザノビの奇跡	部分（一図景物）	背景
	旗幟と図柄の教会、教会とドメニコ会の旗幟	アンドレア・ブオナイウート	1365-68	フレスコ	ドメニコ会の栄光	部分（一図景物）	主題の一部
	フランチェスコ派修道士のフィレンツェ到着	ジョヴァンニ・デル・ピオンド	1370頃	フレスコ	フランチェスコ派のフィレンツェ到着	部分	背景
⑬	予言者イザヤ、エゼキエル、聖人ジョヴァンニ・パティスタ、カテリーナ、アンナ、マッテオ、ヴィットーレ・ババに囲まれた聖処女の旗幟式	ヤコボ・ディ・チョーネ	14世紀後半（1372以降）	板絵	聖母と随行人	全体	主題の一部（図形）
	慈悲深い隊長が抱て子を聖母に寝ねる	ニコロ・ディ・ピエトロ・グルニーニ、アムロージョ・バルデーゼ	1386	フレスコ	慈悲深い隊長が抱て子を聖母に寝ねる	部分	背景
②	聖ザノビの奇跡	ドメニコ・ヴェネツィアーノ	1445-48頃	テンペラ	少年を誕生させたサン・ザノビ	部分	背景
	ルスティチの写本（敬教組）	マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ	1448頃		フィレンツェの聖人物及び聖人の描写	部分	一図景物
	フィレンツェ守護を祈願する聖ザノビ	作者不詳	15世紀	油書き彫り	フィレンツェ守護を祈願する聖ザノビ	部分	背景
	フィレンツェ大聖堂の献堂式	フランチェスコ・ダントニオ・デル・キエリコ	1470	ミニアチュール	フィレンツェの歴史描写	部分	背景
⑦	受胎告知	ピエロ・デル・ポッライウオーロ	1470頃	テンペラ	受胎告知	全体	背景（図形）
⑭	聖母子、聖ザノビ、聖フランチェスコ、聖ジョヴァンニ・パティスタ、聖ニコラ・ディ・パトリ	ヴェロッキオ派	1473-1475	テンペラ	聖母子と随行人	全体	主題の一部（図形）
	サン・エジジオ教会の献堂式	ジローラモ・ダ・クレモナとその一派	1475	ミニアチュール	フィレンツェの歴史描写	部分	背景
	聖衣をまとうサン・フィリッポ・ベニツィ	コジモ・ロッセリ	1476	フレスコ	聖衣をまとうサン・フィリッポ・ベニツィ	部分	背景
	サン・ジョヴァンニ	ヤコボ・デル・セッライオ	1480	テンペラ	サン・ジョヴァンニ	部分	背景
	旗にされたキリスト	ヤコボ・デル・セッライオ	1480-90	テンペラ	キリストの磔刑	部分	背景
③	聖ザノビの奇跡	コジモ・ロッセリとその一派	15世紀後半	ミニアチュール	聖ザノビの奇跡	部分	背景
⑤	聖ザノビの奇跡	コジモ・ロッセリとその一派	15世紀後半	ミニアチュール	聖ザノビの奇跡	部分	背景
	聖ロレンツォの殉教	ガラルド・ディ・ジョヴァンニ	1480頃	ミニアチュール	聖ロレンツォの殉教	部分	背景
	聖ステファノと聖ロレンツォを従え玉座に就く聖ザノビ	ドメニコ・デル・ギランダイオ	1483頃	フレスコ	聖ザノビと随行人	部分	背景
⑧	聖ジョヴァンニ・パティスタと聖アンドレアのいる受胎告知	フィリッポ・リッピ	1483-85	テンペラ	受胎告知	全体	背景（図形）
	少年復活の奇跡	ドメニコ・デル・ギランダイオ	1483-86	フレスコ	少年復活の奇跡	部分	背景
	聖フランチェスコの法の可決	ドメニコ・デル・ギランダイオ	1483-86	フレスコ	聖フランチェスコの法の可決	部分	背景
	サンタンブロージョ教会前で血の聖油を持つ司牧の行列	コジモ・ロッセリ	1486	フレスコ	サンタンブロージョ教会前で血の聖油を持つ司牧の行列	部分	背景
	聖母子、聖ジョヴァンニ、聖マルティノ、聖カテリーナ・ダレッサンドリア、創作依頼者（タナイ・ネルリ、ナンナ・ネルリ）	フィリッポ・リッピ	1488-90頃	テンペラ	聖母マドンナと随行人	全体	アトリビュート
	受胎告知	ガラルド、モンテ・ディ・ジョヴァンニ	1495頃	ミニアチュール	受胎告知	部分	背景
⑮	フィレンツェを抱く聖レバラータ	ガラルド、モンテ・ディ・ジョヴァンニ	1495	ミニアチュール	サンタ・レバラータに守護されるフィレンツェ	全体	アトリビュート
	フィレンツェ大聖堂を献堂するエウゲニオ6世	ガラルド、モンテ・ディ・ジョヴァンニ	1495	ミニアチュール	フィレンツェの歴史描写	部分	背景
	磔刑	作者不詳	15世紀末	ミニアチュール	キリストの磔刑	部分（全図的）	背景（図形）
	十字架の聖ジローラモ	モンテ・ディ・ジョヴァンニ	15世紀末	ミニアチュール	十字架の聖ジローラモ	部分（全図的）	背景（図形）
	貧民門でのジョアッキノとアンナの出会い	ボッカルディーノ・イル・ヴェッキオ	15世紀末	ミニアチュール	貧民門でのジョアッキノとアンナの出会い	部分	背景
⑩	マギの礼拝	モンテ・ディ・ジョヴァンニ？	15世紀末	ミニアチュール	マギの礼拝	部分（全図的）	背景（図形）
	聖エジジオ教会の献堂式	モンテ・ディ・ジョヴァンニ	15世紀末	ミニアチュール	フィレンツェの歴史描写	部分	背景
	復活	ラッファエッリーノ・デル・ガルボ	15世紀末	テンペラ	キリストの復活	部分（全図的）	背景（図形）
	四生	フィレンツェ派	1500頃	板絵	キリストの四生	部分	背景（図形）
	聖ヤコボと聖ピエトロの間にいる幼児イエスと聖ジョヴァンニ	コジモ・ロッセリ	1500頃	板絵	聖母子と随行人	部分	背景（図形）
⑨	象徴的な十字架	サンドロ・ボッッチェリ	1502頃	テンペラ	キリストの磔刑	部分	背景（図形）
	聖体師の行列	アッタヴァンテ・デッリ・アッタヴァンティ	1505	ミニアチュール	聖体師の行列	部分	背景（図形）
	フィレンツェを抱く聖レバラータ	モンテ・ディ・ジョヴァンニ	1508	ミニアチュール	サンタ・レバラータに守護されるフィレンツェ	全体	アトリビュート
	最後の晩餐	フランチェスコ・ディ・クリストファーノ（フランチャビジオ）	1514	フレスコ	最後の晩餐	部分	背景（図形）
	受胎告知	リドルフォ・デル・ギランダイオ	1514	フレスコ	受胎告知	部分	背景（図形）
④	少年を生き返らせた聖ザノビ	リドルフォ・デル・ギランダイオ	1516-17	板絵	サン・ザノビの奇跡	部分	背景
⑥	聖ザノビの体の起移	リドルフォ・デル・ギランダイオ	1516-17	板絵	サン・ザノビの奇跡	部分	背景

表-1 都市フィレンツェが描かれたキリスト教絵画データ

物の数や細部の簡略化が見られる。

④サン・ザノビの奇跡 (リドルフォ・デル・ギランダイオ 1516-17)

上と同じ主題である。構図に関しては道幅がかなり広く描かれており、道の両側の建物でヴィスタを強調するよりは、教会と建物によって囲まれた場所が強調され、ここを舞台として前景を埋め尽くす数多くの民衆が聖人の奇跡を目撃している。

⑤サン・ザノビの奇跡 (コジモ・ロッセリとその一派 15世紀後半)

サン・ザノビのもうひとつの奇跡、すなわち彼の棺桶が大聖堂に運ばれる際、棺桶の触れた枯れ木から芽が生いたという話が主題である。¹⁰場所は現在のサン・ジョヴァンニ洗礼堂付近とされる。この絵画では後ろに建物の壁が描かれているが特定は不可能である。

⑥サン・ザノビの奇跡 (リドルフォ・デル・ギランダイオ 1516-17)

上と同じ主題である。背景の右側にはサン・ジョヴァンニ洗礼堂、背景の左側には手前からサンタ・マリア・デル・フィオーレ教会のファサードの一部、ジョットの鐘楼、ヴェッキオ宮の塔が描かれて、場所を容易に特定できるほど描画方法は正確である。

⑦受胎告知 (ビエロ・デル・ボッライオーロ 1470頃)

受胎告知、すなわちキリストを受胎したことを天使が聖母マリアに告げる場面である。この絵画では物語は室内(都市外部の聖母マリアの住居)で展開され、左奥の開口部を通して遠景としてフィレンツェが描かれている。確認できる建築物は大聖堂、ジョットの鐘楼、ヴェッキオ宮である。開口部奥に小さく描かれたフィレンツェの角度から聖母マリアの住居はフィレンツェの北西部のかなり高い位置(場合によっては上空)にあることが想像される。

⑧受胎告知 (フィリッピーノ・リッピ 1483-85)

物語は聖母マリアの住居の庭で展開している。フィレンツェは中央奥小高い丘の向こうに遠景として描かれる。大聖堂、ジョットの鐘楼、ヴェッキオ宮、バルジェッロの塔が確認できる。描かれたフィレンツェの角度からは聖母マリアの住居はフィレンツェの南方にあると想像できる。

⑨象徴的な十字架 (サンドロ・ボッティチェッリ 1502頃)

十字架の右半分は雲(あるいは煙)が描かれ、左半分の背景にフィレンツェが遠景として描かれている。大聖堂、ジョットの鐘楼、ヴェッキオ宮、サン・ジョヴァンニ洗礼堂、オルサンミケーレ等が確認できる。描かれたフィレンツェの角度からこの磔刑はフィレンツェの南西部(ベッロズグアルド)で行われていると想像できる。

⑩東方三博士の礼拝 (モンテ・ディ・ジョヴァンニ? 15世紀末)

小高い丘を介して遠景にフィレンツェが描かれている。大聖堂のクーボラ、サン・マルコ教会、サンティッシマ・アンヌンツィアータのクーボラ等が確認できる。描かれたフィレンツェの角度よりフィレンツェ南東方向が舞台となっていることが想像できる。

§ 考察

以上より背景としての都市描画方法はさらに2種類に分類できる。

*都市内部が描かれる場合¹¹ (前記絵画①～⑥)

*都市が遠景として描かれる場合¹² (前記絵画⑦～⑩)

前者では都市内部の一地点で物語が展開し物語とそれの展開する場所としての都市は一体である。一方後者では物語とそれの展開する場所は神の居場所として前景で表現され、都市は物語自体からは

切り放され、そこから程遠くない距離に遠景として描かれる。

この描き方の相違は描かれた物語の内容の相違、さらに言うなら物語の登場人物であるキリストや聖母マリアと聖人サン・ザノビの性格の違いに起因すると思われる。¹³つまり聖人サン・ザノビはあくまで聖戦者であり人間であり、彼の奇跡は人間の世界としての都市フィレンツェで起こったことなのである。一方、キリスト、聖母マリアは神の世界に属する人物であり磔刑、受胎告知、東方三博士の礼拝等の事件はあくまで聖書の世界でおこったことである。

従って前者では、神の使者のフィレンツェへの到来、神の世界への仲介者のフィレンツェでの活躍という形式でフィレンツェが描かれる。後者では、神の世界と人間の世界は別々で、神の世界の背景にある人間世界としてフィレンツェは描かれる。しかしながら後者においてもフィレンツェが程遠くない遠景として描かれていることは重要で、このことにより聖書の世界がフィレンツェの城壁外部(つまり人間世界と明確に隔絶された世界)ではありながらも程遠くない身近なところに存在するという感覚を得ることができ、神の世界をより身近に実感できることとなる。画家は、神の世界の遠さと近さを都市の城壁外部という舞台設定で同時に表現したと言える。

極言すれば、これらの描画方法、描画形式においては、神の物語の理解及びその成立する場としてのフィレンツェ、もしくはその場とフィレンツェの近さの感覚による日常都市生活に対しての神の世界の浸透がもくろまれていると言えるだろう。

【神のアトリビュートとして描かれた都市フィレンツェについての分析】

⑪慈愛の聖母 (ベルナルド・グッディ 1342)

聖母マリアのマントの下に庇護される都市フィレンツェが描かれている。フィレンツェの描写はかなり正確で厳密である。サン・ジョヴァンニ洗礼堂、ボデスタ宮、大聖堂ファサード、ジョットの鐘楼、サンタ・クロチェ教会、ヴェッキオ宮、バディアの鐘楼、サンタ・マリア・ノヴェッラ教会等が確認できる。

⑫聖母子と諸聖人 (ジョット派 14世紀半ば)

聖母マリアに都市の庇護を求める聖人が描かれている。都市フィレンツェは聖人の手の中にサン・ジョヴァンニ洗礼堂として象徴的かつ記号的に描かれている。

⑬予言者イザイア、エゼキエーレ、聖人ジョヴァンニ・バッティスタ、カテリーナ、アンナ、マッテオ、ヴィットーレ・パバに囲まれた聖処女の戴冠式 (ヤコボ・ディ・チョーネ 14世紀後半)

都市フィレンツェは聖人サンタ・アンナの腕の中に抱えられている。サン・ジョヴァンニ洗礼堂とヴェッキオ宮が確認できる。

⑭聖母子及びサン・ザノビ、サン・フランチェスコ、サン・ジョヴァンニ・バッティスタ、ニコラ・ディ・バーリの諸聖人 (ヴェロッキオ派 1473-75)

都市フィレンツェはサン・ザノビの左手に支えられている。都市内部に確認できる建築物は洗礼堂、大聖堂のクーボラ、ジョットの鐘楼、ヴェッキオ宮、バルジェッロの塔と鐘楼、バディアと旧サン・ピエール・マッジョーレ教会の鐘楼である。

⑮都市フィレンツェを抱くサンタ・レバラータ (ゲラルド及びモンテ・ディ・ジョヴァンニ 1495)

聖人サンタ・レバラータが腕の中にフィレンツェを抱えている。

都市内にヴェッキオ宮及び城門が確認できる。サンタ・レパレータとは旧大聖堂の名前でもあり、1298年まで守護聖者であった。¹⁴都市内部にこの教会が存在すると考えると、聖人サンタ・レパレータが都市フィレンツェを抱え、さらにその内部にサンタ・レパレータ教会が存在するという重層的な構造となる。

§ 考察

この種の描かれ方においては純粋な視覚以上に聖母マリア、聖人等の人物と都市の関係の知的理解が要求される。絵画化された図式である。人物と都市のスケール感の転倒が見られ都市は一個の小模型（雛形）として聖人や聖母マリアの付属物（アトリビュート）のごとくに描かれる。フィレンツェは場所としての性格を失い対象化される。聖母のマントの下都市、諸聖人の手の上や胸の中の都市といった絵画の構図、位置関係から神に絶えず守護され続けるフィレンツェ、言い換えるなら神の人格とフィレンツェの関係の理解が求められる。¹⁵

3. 総合的考察

これらの分析考察より次のような総合的考察が可能である。

都市フィレンツェは厳密には次の三形式に表現されている。

- * 父なる神の仲介者（諸聖人、聖母）の活躍する都市フィレンツェ。（フィレンツェにおいて神の御業が行われる。）
- * 神の世界（天上の神の世界、聖書の物語の展開する世界）と都市フィレンツェの近接性
- * 神的存在の人格に守護された都市フィレンツェ

これらの描き方は神的存在の両義性を明らかにするとともに、都市の両義性を示唆すると思われる。すなわち、神は、都市（あるいは人間世界）を内包する存在であるとともに、都市（あるいは人間世界）に内在して定位する存在でもある。このことは都市にとっては神を場所として内包し支えつつ、同時に神の人格に内在し守護されるという両義性を示唆する。このような神と都市の相互内包的かつ置換可能な関係性がキリスト教の栄光を堅固なものとし、同時に人間の、キリスト教に支えられた宗教的都市生活をより豊かにしていたのだと考えられる。

さらにこのような神と都市の関係は、人間と都市の両義的な関係さえ類比的に示唆するであろう。一方は人間の経験を可能にする場所としての都市であり、もう一方は人間の人格により意識対象化され育まれていく都市である。

図-1 キリスト教絵画におけるフィレンツェの位置関係

4. 都市が描かれたキリスト教絵画が〈ヴェドゥータ〉成立において果たした役割、都市の建設活動との関係及びフィレンツェの独自性形成について

都市が描かれた絵画はこの後、〈ヴェドゥータ〉として、絵画ジャンルのにも完成されることとなる。〈ヴェドゥータ〉成立には、キリスト教的な動機から開放され都市そのものが描画対象になったこと、そしてそのような視覚像としての都市を描くための手法（透視図法）が完成したことが深く関わっている。¹⁶キリスト教絵画における都市の描写が、直接〈ヴェドゥータ〉成立へとつながったと考えるのは、誤りである。これらの絵画において都市描画の根本的動機はまったく異なり、キリスト教絵画においては前述の通り神の世界及び神の人格との関係性において都市フィレンツェは描かれたが、〈ヴェドゥータ〉においては都市フィレンツェは地理的、地誌的興味のもとに描かれた。しかしながら、これらの絵画の間に何のつながりもなかったと考えるのも同時に誤りである。描画手法的に見るならば、例えば、透視図法は〈ヴェドゥータ〉の中ではなくキリスト教絵画の中で建築物や室内を描く際に用いられることによって、確固たる地位を築いていった。（例えば全掲②⑦の絵画では室内描写や背景の建築物の描写に厳密な透視図法の使用が見られる。）また、〈ヴェドゥータ〉における都市表現の正確さへのこだわりは透視図法成立以前の中世のキリスト教絵画の中で準備された。（例えば前掲⑩では都市描写は非常に正確でフィレンツェの数多くの主要建築物が認められる。）このように〈ヴェドゥータ〉成立にキリスト教絵画は多大の貢献をした。このような状況の中でキリスト教絵画における都市描写から〈ヴェドゥータ〉における都市描写への移行が起こったのであるが、それはある時期を境に劇的に起こったものではなく、非常にゆっくりとした変化であった。また、〈ヴェドゥータ〉による都市描写法の成立は、それ以前のキリスト教的な描写法の否定を意味しなかった。このことは15世紀後半から16世紀前半にかけては、都市がキリスト教絵画の中で描かれると同時に、〈ヴェドゥータ〉として同じ都市が全く違う視点によって描かれる状況が続いたことが端的に物語っている。（例えば1472/82の「鎖のフィレンツェ図」や15世紀末の「フィレンツェ図」¹⁷）そしてこの事実はフィレンツェがある時期において決して一つの視点でのみ都市として認識されていたのではなく、ある時は宗教的に神に守護される都市として、またある時は現実的な視覚像として、多重に認識されていたことを示す。このことはさらに人間が都市を宗教的環境のみならず、現実的な地理的環境としても多様に生きていたことを証明し、ひいては都市フィレンツェそのものの厚みと豊かさ（フィレンツェの独自性）を示すと考える。

このように多様な都市の見方が形成され都市認識に自覚的になっていくという都市の描画活動における経過は、キリスト教絵画に描かれた都市フィレンツェが実際の都市計画へ直接結び付いた例はないものの、都市の建設活動との間に並行的な関係あるいは影響関係が見られる。

14世紀から16世紀にかけてはフィレンツェでは活発な都市建設活動があった時期である。大まかには14世紀までのアルノルフォ・ディ・カンビオを中心に共和制に裏打ちされ数多くの建築物や城壁が建設されフィレンツェの都市の素地が形成された時期、そしてその後の15世紀にフィリッポ・ブルネレスキを中心とした建築家が幾

アトリビュートとして描かれたフィレンツェ	背景として描かれたフィレンツェ	
	都市内部が描かれる場合	遠景として描かれる場合
<p>聖人、聖母</p>	<p>フィレンツェ</p>	<p>聖書の世界</p>
<p>⑪慈愛の聖母（部分） ベルナルド・ダッディ 1342</p>	<p>⑫聖ザノビの奇跡 ドメニコ・ヴェネツィアーノ 1445-48 頃</p>	<p>⑦受胎告知 ピエロ・デル・ポッライウオーロ 1470 頃（左奥開口部にフィレンツェ）</p>
<p>⑮フィレンツェを抱く聖レパラータ ゲラルド、モンテ・ディ・ジョヴァンニ（部分） 1495</p>	<p>④少年を生き返らせた聖ザノビ リドルフォ・デル・ギランダイオ 1516-17</p>	<p>⑧聖ジョバンニ・バッティスタと聖アンドレアのいる受胎告知（中央奥にフィレンツェ） フィリッピーノ・リッピ 1483-85</p>
<p>⑭聖母子、聖ザノビ、聖フランチェスコ、聖ジョヴァンニ・バッティスタ、聖ニコラ・ディ・バーリ（部分） ヴェロッキオ派 1473-75</p>	<p>⑥聖ザノビの体の遷移 リドルフォ・デル・ギランダイオ 1516-17</p>	<p>⑨象徴的な十字架（左奥にフィレンツェ） サンドロ・ボッティチェリ 1502 頃</p>

表-2 都市フィレンツェが描かれたキリスト教絵画描画形式分類

つかの建築物を完成させることにより都市にルネサンス的理念を付与した時期とに分類される。¹⁸ここでも中世に建設された都市に積極的に意味を付与していくという都市構造に対して自覚的になっていく経過を見て取ることができる。さらに都市の描画活動と都市の建設活動は透視図法やヴェドゥータによって相補的に結びつく可能性を見出し（これまでの都市の描画活動は既に建設され存在する都市をモデルとして行われていたが、この後描画された都市をモデルに都市が建設される道が開かれた）合理的な精神の下で都市そのものに対してより自覚的となる。都市フィレンツェはこの様な経過を通してルネサンス都市としての独自性、言い換えればフィレンツェがフィレンツェであるところの都市のアイデアを獲得していったと考えられる。

註及び参考文献

- ¹ 本論では「キリスト教絵画」を、キリスト教を主題として扱い、キリスト教世界（神の世界）の栄光を表現した絵画であると捉えた。ピーター・パーク著『イタリアルネサンスの文化と社会』p.260によると1420年から1539年の年記のある絵画カタログの内2033点の作品に主題が記されており、その約87パーセントが宗教画ということである。
また描かれた都市については全景、部分景を問わず、「キリスト教絵画に描かれた都市」とした。
- 本論で扱った具体的な絵画史料は「Firenze nella Pittura」Divo Savelli 編 1993 Tipo Lito Editorice より収集した。管見によると本書籍内には都市フィレンツェが描かれている14世紀から16世紀までのキリスト教絵画がほぼすべて掲載されていると思われる。なおこれらの絵画の説明については適宜参考にした。
- ² 一般に「神」は「父なる神」を指示するが本稿ではキリスト教絵画の登場人物としての「父なる神」、「キリスト」、「聖母マリア」、「諸聖人」、「天使」等を総称する必要性から、あえてこれらを「神々」「神的存在」という述語で呼称した。
- ³ 都市（本論においては西洋もしくはイタリアの都市）とは物理的構造物として空間的に完結した人間の手になる最大の芸術作品であり、人工物として自然と明確に区別され対置されるものである。形態的には城壁による都市内部の限定により一個の物体として認識される。このことが都市を、神のアトリビュートとして描くことを可能とする。
- ⁴ 絵画分析の幅を広げるならば、キリスト教の細かい教義、宗派(School)の違い、絵画表現の流行等を考慮する必要があるが、本稿では描かれたフィレンツェの形式的な特性のみに注目する。
- ⁵ <ヴェドゥータ>成立の時期については諸般の説があるがここでは「鎖のフィレンツェ図」1472/82をフィレンツェにおける最初の<ヴェドゥータ>と考える。<ヴェドゥータ>の定義、成立およびその他の特質についての詳しい内容は、拙稿「都市を対象とした描画活動及び都市の建設活動の関係性について考察—都市景観画（ヴェドゥータ）による都市フィレンツェに関する建築論的研究（その1）—」日本建築学会計画系論文第512号を参照のこと。本稿では<ヴェドゥータ>の定義を比較的広く「視覚像としての都市景観画」として捉えている。そしてキリスト教絵画の中に描かれた都市フィレンツェについても<ヴェドゥータ>との関連の中で<ヴェドゥータ>成立以前の準備段階と捉え、このような絵画も含めて<ヴェドゥティスム>（<ヴェドゥータ>の歴史の変遷、都市描写の歴史）と捉える。
- ⁶ キリスト教絵画の代表的主題は聖書の物語が多く、それ以外にも諸聖人の伝説、ギリシャ・ローマ神話等がある。特にフィレンツェ絵画に見られる主題（しかも都市を併せて描いたもの）としては「受胎告知」、「聖母子」、「慈悲の聖母」、「聖会話」、「磔刑」、「東方三博士の礼拝」、「子どもを生き返らせたサン・ザノビ」、「枯れ木を蘇らせたサン・ザノビの聖櫃」等がある。
- ⁷ 「西洋美術解説事典」ジェイムズ・ホール 高階秀爾監修 1988 河出書房新社 p.195、「フィレンツェ」若桑みどり 1994 文芸春秋 p.356,357、「フィレンツェ絵画とその社会的背景」フレデリック・アンタル 著 中森義宗訳 1968 美術名著選書 岩崎美術社 p.192等を参考にと、以下のようなことが分かる。

聖人には実在の聖職者が多く、宗教的な高みに至った人々であり、神の世界へと民衆を正しく導く役目を持っている。また守護の役割があり、個人、団体、建築物、都市を守護する。また絵画においては道徳的、知的な特質が擬人化され聖人として表現されることがある。天使は神々の使者であり、父なる神に代わり神意を伝え実行する役目がある。聖母マリアは基本的にはキリストの母として描かれるが、それ以外に民衆の代願者として父なる神の前で取りなすこともある。

またフィレンツェで好まれた聖人としてサン・ザノビ、サン・ジョヴァンニ・パッティスタ、サンタ・レパラータ、サン・ロレンツォ、コスマス、ダミアヌスなどがある。

⁸ 表-1の絵画整理項目に関して、タイトルについては通称名の存在するものと存在しないものがあり、存在しない場合には絵画のテーマがそのままタイトルとされることが多い。本稿では前記「Firenze nella Pittura」Divo Savelli 編 1993 Tipo Lito Editorice に記載のタイトルを用いた。

⁹ 上記「西洋美術解説事典」 p.201、及び前記「Firenze nella Pittura」 p.42,100,160,228

¹⁰ 同上

¹¹ この描き方は絵画技法的には透視図法の発展に支えられ、後のベッロット（Bernardo Bellotto）やゾッキ（Giuseppe Zocchi）等の都市内部の名所を描いたシリーズ絵画（都市の部分景としての<ヴェドゥータ>）へと引き継がれたと考えられる。

¹² 遠景に描かれた都市をフィレンツェと特定することには注意が必要である。遠景として描くことから不可避的に都市自体は小さく描かれる。この結果、都市の細部まで描くことは不可能で代表的な建築物のみが描かれることとなる。一方画家がエルサレムを描く場合には想像上の理想都市として描く傾向があり、様々な都市の実在の有名建築物が引用されることがある。この結果例えばフィレンツェの大聖堂や洗礼堂を模して描かれている場合でもフィレンツェを表しているのではなくエルサレムを表している可能性もある。従って都市の特定においては絵画テーマや同時に描かれている諸建築物との関係から総合的に判断する必要がある。省略表現されたフィレンツェに比較的共通に描かれているのは大聖堂（サンタ・マリア・デル・フィオーレ）、ジョットの鐘楼、サン・ジョヴァンニ洗礼堂、ヴェッキオ宮である。

また絵画分析で明らかになったようにフィレンツェの描かれ方の角度は定まらない。逆に考えると聖書の世界での神的存在の住居は、画家の選択によりフィレンツェの城壁外部を自由に移動していることとなる。しかしながら画家は実際に自分の目を見た都市景観を参考にしてフィレンツェの遠景を描いたと考えられこの時期すでに都市眺望の幾つかの名所が成立していた可能性もある。

この描き方は都市全景を描いた<ヴェドゥータ>へと引き継がれたと考えられる。

¹³ 脚注5参照

¹⁴ 前記「西洋美術解説事典」p.373

¹⁵ このタイプの絵画はもちろん他都市にも多数存在する。分かりやすい例では、例えばタッデオ・ディ・バルトロ作の守護聖人像では聖人は非常に大きなサンジミニャーノの都市モデルを左手を添え膝の上に載せて座っている。また、カルロ・クリヴェリ作「受胎告知」1486ではアスコリ・ピチーノ市の守護聖人エミディウスが膝に同市のモデルを支えて大天使を歓迎しつつともに聖母マリアの住居の外で跪いている。本稿ではこのような聖母や聖人の都市に対する関係をおおよそ「守護」という語で一括して表現したが、それぞれの場面設定や、聖母、聖人の微妙な所作や彼らに対する都市モデルの位置関係等により、繊細かつデリケートな意味付けが都市に対して加えられている可能性もある。これについては今後の課題としたい。

¹⁶ 脚注4参照

¹⁷ これ以外にも、数は少ないが歴史画（歴史的事件を題材として描かれた絵画）もこの時期から少しずつ登場し、この中でもフィレンツェが描かれ始めた。（例えば15世紀初頭の「サヴォナローラの焚刑」）またさらに数は少ないが「ダンテと彼の詩」1465 ドメニコ・ディ・ミケリーノのような文学作品の世界の中でのフィレンツェを描写した絵画も存在した。

¹⁸ Giovanni Fanelli: 『La Città nella Storia d'Italia FIRENZE』1980 p.71～を参考にした。

（1998年12月7日原稿受理、1999年4月2日採用決定）